

カルメル 霊性センターニュース



聖母子像 (宇治カルメル修道院)

2019年7月

355号

教会からの巻頭のことば 「お願いします。イエスにお目にかかりたいのです」

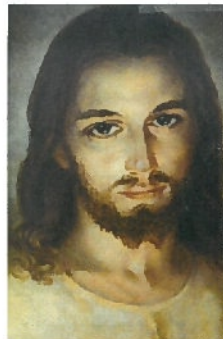
わたしたちは、或る人たちが捕囚期になぞらえた時代に生きています。イスラエルは、歴史のその時期、自分の一切の拠りどころ（神の現存の場である神殿、王国の首都であり民の統一の中心であるエルサレム、国家としてのアイデンティティーの拠点である君主制）を剥奪されてきました。同じように、教会と奉献生活は、特に西欧において、近年まで持っていた多くの拠りどころを失いました。代わって、探求、不確実性、多様性、混迷が前面に出てきました。イスラエルの民と同じく、奉献生活は突然、かつての拠りどころを喪失した自分に気づいたのです。

捕囚は外面的な出来事であるばかりでなく、霊的な体験です。十字架の聖ヨハネの詩のいたる箇所に見出され、私たちの霊的歩み全体を定義する「…から出る」、「暗夜」という表現、また、「未知の土地に行くためには」、「新しい、未知の、開拓されていない道を辿って行かなければならない」（暗夜Ⅱ6.8）という、不可避の定めは、同じ現実に向面させます。捕囚期の人々は、幾つもの国境を越えなければならなかったにもかかわらず、心には、自分たちが残してきたものに対して、霊的絆と郷愁とを抱き続けていました。彼らは、自分たちが失ったにもかかわらず、自分たちのアイデンティティーの一部であり続けるものによって苦しみます。奉献生活、特に私たちの会は、捕囚の状況から、新しい道を開拓しなければなりませんでした。

さて、新しい領域に立ち向かい、新しい道を切り開いてゆくためには、深い霊性が必要です。

新しい体験は、祈りのうちに識別しつつ行うならば、アイデンティティーを失わせてしまうどころか、一新した形でそれを保たせてくれます。捕囚は、希望をもって再出発する好機です。それは本質的なことから再出発するという、不断の挑戦に立ち向かい、主の救いの計画が実現する歴史的条件付けを発見しつつ、信仰と神の認識において成長、成熟してゆく好機です。

（カルメル会 2003年 総会文書『本質的なものからの再出発』から）



目次

教会からの巻頭の言葉	1
目次	2
心の泉	3
カルメル会の企画案内	23
東京	24
名古屋	27
京都	28
北陸	30
諸所の企画案内	31
郵送お申込みのご案内	38
あとがき	39

心の泉



聖母子像(宇治カルメル会聖堂)



第三卷

第二十一章 すべての善と賜物にまさって、神のうちに平和を見いだす

4 イエスなしに喜びはない

主よ、あなたのみ前にあって私の口は声を失い、ただ沈黙し、あなたに語りません。私の主よ、あなたがおいでになるのは、いつのことでしょうか？貧しいしもべである私を訪れ、喜びで満たしてください。私の上にみ手を差し伸べて、不幸な私を患難から救ってください。来てください、主よ、来てください！あなたなしには、私には一日も一刻も喜びがありません。あなたこそ私の喜びです。あなたなしでは、私の食卓はさびしい。あなたがその現存をもって私を生かし、解放し、優しいみ顔を見せてくださらなければ、私は不幸で、囚人のように鎖に縛られているのです。

5 恵みの望み

他人は、その望みに従って、あなた以外の何かを求めるかもしれませんが。しかし私には、希望と永遠の救いであるあなたのほかに望ましいものはないし、また望まないでしょう。あなたが恵みを与えて、私の心に語りかけてくださるまで、私は沈黙しないで願い続けます。》

6 主

《私を呼び求めたあなたのもとに、私は来た。あなたの涙と望み、へりくだりと痛悔とが、私をあなたのほうへ動かした。》

7 子

《そこで私は答えました。「主よ、私はあなたを呼び、あなたのうちに楽しみを求めます。私はあなたのためにすべてを捨てる覚悟です。私はあなたを求めましたが、それより先にあなたが私を動かしてくださったからです。無限のあわれみによってしもべに恵みを示してくださった主よ、あなたは祝されますように。自分の罪と卑しさとをつねに忘れず、あなたのみ前に深くへりくだる以外に、このしもべは、なすすべを知りません。天地の不思議が数多くあるなかで、あなたに比べられるものではありません。あなたのみ業は善く、その裁きは正しい。そしてあなたのみ摂理は万物を支配します。ああ、おん父の英知よ、あなたに称賛と光栄とがありますように。私の口、私の心、全被造物があなたをたたえ、祝しますように。》

うっとうしい梅雨が明ける7月・・・16日はカルメル山の聖母の祝日、20日は預言者エリヤ、26日はマリアさまの母聖アンナの祝日を祝います。

預言者エリヤは、バールの神により頼むようになったイスラエルの民への罰として真の神は生命の源ともいえる雨を絶たれたとき、人々が真の神に立ち返るよう執り成しました。（エリヤはカルメル山の山頂で「人の手ほどの小さな雲」が海から立ち上がるのを見届け、この雨雲に子をはらんだ聖母マリアを眺めました（初代修道者に関する資料）。エリヤの信仰のまなざしはそこに命そのものであるキリスト、恵みの雨の前兆を読み取ったのです。後日「人々に命を与える」贖い主は「命の水」に渴いている人々の心を潤すこととなります。（Ⅱ列王17～19）

心も体も真の命の水に飢え渴き、

日々の生活の中で常に

真の命キリストを求め続けますように・・・



そよ風の中から エリアに

ささやいた

恵みのみことばを わたしにも聞かせてください。

カルメルの彼方の海から

のぼりゆく 小さな雲

砂漠をうるおす いのちの泉、マリア



スカプularioを授ける聖母

伊従信子（いより のぶこ）

ノートルダム・ド・ヴィ

創造主への賛美 (22)

くのり 彰
九里 彰

一人ひとりの違いが、当然のごとく差別を生む。この現実をどのように捉えるかは、さまざまであろう。

この世は、一人ひとりの相違を評価し、優劣をつけることで成り立っている。動物の世界でも人間の世界でも、腕力、体力の強い者が、グループを牛耳る。しかし、少しばかり脳が発達すると、動物の世界でも、単に力が強いだけではだめのようなのである。グループ全体を見、群れの平和や共通利益を配慮していく賢さ、知的な能力が求められてくるようである。人間の場合には、さらに複雑で、いかなる人間であるかが問われてくる。単なる理屈、論理を超えた、人を思いやる心の温かさや心の広さ、あるいは社会の不正や悪に屈しない断固たる態度、あるいはこの世の富や名誉に振り回されない清廉潔白な生き方等々。

いずれにせよ、さまざまな分野において、各人の優劣が判定され、その評価が定まる。トップに立つ者には、社会的名誉にとどまらず、社会的地位や権力、莫大な財産や豊かな生活が保証されることとなる。これは、スポーツの世界、歌手や俳優やテレビ・タレントなどの芸能界などを見れば、一目瞭然であろう。このため、各分野において、国内でも全世界でも、トップを目指して、死に物狂いの競争が展開されることとなる。

このような傾きの中で、今もなおこの世界や歴史は動いている。そして人間性そのものに潜む、この絶えず上を目指す傾きの中に、人間の偉大さと悲慘さ、幸福と不幸が横たわっていると言える。

原罪によって、人の目は開き、自分を見、他人を見るようになる。比較が始まる。例えば、100メートルを百人が走れば、1番から100番まで順位が付く。順位がつくのは比較しているからである。一番の者は「足が速い」と賞賛され、ビリの者は「のろま」と馬鹿にされる。あるいは同じ試験問題を百人が受ける。これまた1番から100番まで順位が付く。一番の者は「頭がいい」と称賛され、ビリの者は「馬鹿、アホ」と軽蔑される。あるいは美人コンテストが行われ、百人の者が参加する。これまた1番から100番まで順位が付く。一番の者は「美人」とチャホヤされ、ビリの者は「美人でない」とされたので、ブスツとなる。

比較によって生じるほんのわずかな違いが、優劣とされ、優越感と劣等感を生み出す。

いじめは ちがいがから 起きる

(続く)

十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (137)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「十字架の聖ヨハネの本質的で深遠な解説」(14)

- (9) 夕餉(夕げ) : 「この夕食は、愛する人々に楽しみと満足と愛をもたらす。なぜなら、愛するお方は、この快い交わりにおいて、靈魂内にこれら三つのものをもたらすからで、それゆえ靈魂は、愛するお方をここでは、”愛に酔わす楽しい夕餉”と呼ぶ」(同 28)。
- (10) 太陽 : 「あたたも、太陽が大海に燦々と照りつけると、深海の底やくぼみまでも照らし出され、真珠とか黄金やその他の貴金属のきわめて豊富な鉱脈があらわにされのにも似ている」(CB20-21,14)。「それは、太陽がその光線を放射する時、乾かし、あたため、美しくし、照り輝かせるのにも似ている」(CB33,1)。「太陽はあれほどすばらしい効果をもたらすことで際立っている」(LB2,5)。「太陽は早起きし、あなたの家に入ろうとしている」(CB3,46)。

『靈の賛歌』のいくつか先の歌は、開花現象や靈魂の諸徳の芳香を説明する時、ふたたびこれらの現実を花とか花咲く月といった言葉を手がかりに織り成してしています。内容は少し不自然で無理な印象を与えますが、第 14 と 15 の歌で述べたことをざっと復習するように書かれています。たとえば、次のように。

「靈魂は自分の内に、前に述べた“山々”の花を、すなわち、
—— 神の富、偉大さ、美しさを (見るようになる)。
そして、この山々には、“生い茂る谷々”のすずらんが、すなわち、
—— 憩い、すがすがしさ、安けさが (織り込まれている)。
そして、“ふしぎな島々”の香り高いばらが、すなわち、
—— 神についての驚くべき知解が (その間にちりばめられている)。
また、“水音高く流れる川”の百合の芳香が、すなわち、
—— 靈魂全体を満たす神の偉大さが (靈魂をおそう)。



C年 年間 第14主日

(ルカ10：1-12, 17-20)

今日のルカによる福音では、愛に満ちたイエスが七十二人の弟子たちを任命し、イエスご自身が告げた福音の宣教のために二人一組で彼らを派遣する話が描かれています。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい」と主は語ります。これはつまり、宣教の働き手を増やす必要性が高まる中、祈りによってのみそれが実現可能であることを意味します。福音宣教とは神のみ業であり、祈りやとりなし等を通じて神からの使命を実行する恵みが与えられるものだからです。私たちは一人残らず、この目的のために祈らなければなりません。収穫のために働く司祭、修道者、信徒が増えるように私は祈っているだろうか？そして私自身は収穫のために精を出す働き手になっているだろうか？とここで自問自答してみましょう。

キリストによって派遣される宣教の使命は、とても豊かなものであると同時に、大きな挑戦をも伴います。「狼の群れに子羊を送り込む」と例えられるほど困難な仕事です。危険、失敗、不安、拒絶、差別等に直面したときも強い信仰を持ち続けなければなりません。イエスは、弟子たちに対し、宣教に出かけるときにたくさんの荷物を持って行くな、と教えます。金、財産、保険といった物質的な持ち物に安心を求めずに、神のはからいに全幅の信頼を置くべきなのです。宣教者たちは、何よりもまず、自分たちの生き様を通じて、神の国と神の平和の到来を告げます。ですから、清貧は必要不可欠です。人間的な手段を一番大事にしてはいけないのです。イエスが軍事力や富や外面的な虚栄を用いなかったことを皆さんはご存じでしょう。主は「豊かであったのに貧しくなられ」、自分の富をひけらかしませんでした。教会と宣教者全員にまず求められるのは、愛である主イエスに倣って「貧しくなる」ことです。

現実には、宣教者たちは、愛・平和・和解の共同体を作り、病人を癒し、神の国が近づいたことを宣言することで、救い主と神の国を知らせます。事実、私たちは皆、よい知らせを広めて主が人々の心に訪れるための道を整えるようにとイエスに呼ばれています。これは、洗礼と堅信の秘跡を受けた全員に与えられた責任です。私たちの教会は、宣教する教会でなければならない、と言うのはこのことを指します。神は、キリスト者の共同体が、絶えず宣教する共同体であることを願っています。他者をキリストへと導くことではじめて、私たちはキリスト者としての真の喜びを味わい、キリストの弟子と呼ばれるにふさわしい者となります。

(Sr. Paulina)

年間 第15主日

(ルカ10:25-37)

サマリア人は、その人を「見て」、「憐れに思い」、「近寄って」、自分にできる最善のことをしました。祭司やレビ人はその人を「見て」、「道の向こう側を通過して」行きました。その人を見た時の反応がまったく違います。サマリア人に倣うには、根本的には、この最初の反応から改善する必要があります。しかし、それはコントロールできない衝動でもあり、改善は簡単ではありません。

「いやだな」、「面倒だな」、「関わりたくないな」と多くの人は感じてしまいます。どうしたら、そのような消極的な思いに打ち勝ち、憐れみ（共感する心）を心に抱くことができるでしょうか。

それは、自分の中にあるエゴイズムを浄めていくことによって、少しずつ近づくものだと思います。自分中心（エゴ中心）からキリスト中心の心に変化していく霊的成長のプロセスを歩んでいく必要があります。きもちわるい芋虫が美しい蝶に変わり、自由にはばたいていくように、私たちも、醜いエゴイズムに満ちた自分から、キリストのようないつくしみに満ちた心で、自由に、聖霊の風を受けてはばたく人になるようにと呼ばれているのです。「あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい」(ルカ6:36)。

芋虫が蝶になる過程に、さなぎの状態があります。さなぎはあたかも死んだような状態です。しかし、触ってみると動くので、死んだようだけで、実は生きています。私たちがエゴイズムから脱皮し、愛において自由な人間に変容するためにも、さなぎのように死んでいく努力が必要だといえます。

「わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています」。「わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることもなると信じます」(ローマ6:6-8)。

これは洗礼の秘義を教えるパウロの言葉です。「古い自分」を十字架につけ、「キリストと共に死に、キリストと共に生きる」。これが洗礼の目的です。この洗礼の目的に沿って、古い自分を十字架につけていくことが、課題ではないでしょうか。

芋虫は、自分で葉っぱを食べ、糸をつむいでまゆを作り、その中で死んだようにさなぎになります。私たちも、聖書の言葉や霊的な言葉をたくさん食べて、自分で糸を出して、古い自分に死んでいく必要があるのです。イエス・キリストと神の教えに触発されて、エゴイズムに満ちた自分を抑制していく修行。神は、そのような修行をする人を祝福され、いつくしみの人になってはばたいて行けるように、助けを与えてくださいます。

肝心な点は、自分の靈魂の中に巢食っている醜さに気づき、聖書の言葉に勇気づけられて、その状態から死んでいこうとすることです。それは、具体的には、糾明、告白、赦し、そして恵みに助けられた努力と忍耐だと思えます。そうして、私たちは徐々に変容していくことができるのだと思えます。

自由な心で、困っている人に関心を向け、惜しまず自分を差し出す人になれますように。良きサマリア人のように、聖霊の風に乗ってはばたくことができますように。

(今泉健神父)

年間 第16主日 C

(ルカ 10:38-42)

「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」

この福音の中で、イエス様がいらしたときの真のおもてなしの姿の模範を読みます。イエス様は、いつもマリア、マルタ、ラザロの家で歓迎されていたようです。イエス様と皆がとても親しくしていましたが、気持ちはそれぞれ異なっていました。

マリアはイエス様の足もとに座ってその話に聞き入っていた、と福音は述べています。これは本当の聴く姿勢を意味しています。一方、マルタはその家のよい主人として、おもてなしの準備に没頭していました。よい主人になりたかったので、仕事に悩まされていました。マルタがマリアのことをイエス様に文句を言うと、イエス様はマルタに言われました。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」

この言葉は、おもてなしについて言っています。イエス様がこの姉妹たちに、そして私たちに望んでいることは、自分が行うことは何であってもバランスをとるべきであり、思い悩む自由な生活を生きなければならないということです。人生の中で必要なただ一つのこととは真の愛であり、行動と観想において、祈りと奉仕において従うべきです。マルタとマリアは二人とも主に仕え、愛しています。二人とも神の呼びかけに十分に応えています、気持ちは異なっています。マリアの心は平和と調和のうちに主と深く結ばれていますが、マルタの心は多くのことに思い悩み、心を乱しています。

マルタとマリアのように、私たちはキリストを自分の家、特に自分の心の中にお迎えするように呼ばれています。イエス様をお迎えし、祈りと賛美のうちに足もとに座るように呼ばれています。聖書の中でイエス様が話しかけられるとき、座って耳を傾けるように呼ばれています。私たちはマリアを見習い良い方を選び、キリストを生活の中心にするように呼ばれています。マルタのように他者への奉仕に一生懸命働くように呼ばれています、私たちはそれをマリアの心で行いたいと思います。仕事の聖化はあらゆることに及びます。マルタの活動的な手とマリアの観想的な心を持ち、多くのことに気を散らさず、祈りと仕事のうちにイエス様に集中します。

終わりに、私たちは自分の生活の中でイエス様が「必要なただ一つのこと」であるか、忙しい生活の中でイエス様が最優先の方であるか、自分自身に問う必要があります。

(Sr. Paulina)

年間 第17主日

(ルカ11:1-13)

今日のみことばですが、神の子として生きる私たちにとって大切なことが語られます。前半は、1人の弟子の願いに応え、イエスが教えて下さった所謂「主の祈り」について、そして後半は、熱心に祈ることの大切さを幾つかの譬えをもってイエスは話されます。

私たちは自分のこと、自分の願いを真っ先にお願ひしようとするきらいがありますが、そうではなく、まず初めにこの世界を創造なされ、私たちを心から愛し、洗礼によって私たちを神の子として下さった「父なる神」に心を向け、「御名が崇められますように。御国が来ますように。」と祈る様に勧めます。そして次に自分に必要なことを願ひます。祈りの時、何よりもまず心を、愛して下さる神に向け、賛美することが大切なのですね。

それだけではなく、自分に対し負い目のある人を皆赦しますから、自分の罪を赦して下さいと願ひます。自分と人との関係、自分と神との関係を正しいものに直した上で、新たに生きようとする様にと招きます。そして正しく歩み続けることができるように、誘惑から守られるように願ひます。神の守りに信頼し、再び歩みだしてゆくのですね。

私たちは罪汚れのない完全な者ではありません。常に神からの赦し、人からの赦しが必要な存在です。そして赦してこそ赦される存在ですね。まず人を赦すことによって、私たちも赦される…そのことを心にしっかりと留めたいと思います。

そして神に何かを願う時、熱心に祈ることの大切さについて、友達のところが必要に迫られて、真夜中に行ってパンを願った時の話の譬えをもって、イエスは語られました。こちらが執拗に願えば、相手の方は根負けし、これ以上面倒を掛けて欲しくないため、必要なものは何でも与えるだろう…と。すぐに願いが聞き入れられなかったとしても、願いが叶わなかったとしても、あきらめずに熱心に繰り返し願うことが大切なのです。

「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。」私たちにご自分の愛する独り子、そして聖霊を与えて下さる天の父に信頼しながら、ともに歩んでゆくことができますように。

(Fr. 古川利雅)

いのちの言葉 7月

ただで受けたのだから、ただで与えなさい。

(マタイ福音書 10・8)

パレスチナの方々を巡り歩いたイエスは、苦しみさ迷う多くの人を目の当たりにし、彼らを深く憐れまれました。

イエスと共に生活した弟子たちも、イエスを通して、神の憐れみを強く体験しました。弱さと限界をもっていた彼らに、イエスは、相手を互いに受け入れ愛し合う「新しい掟」をお与えになりました。それは、勇気と光を心にもたらし、困難にあっても、また、人生の暗闇の中にあっても歩み続ける助けとなる贈り物でした。

イエスは、この贈り物がすべての人に与えられるように望まれ、まず弟子たちに、そして今日の私たちキリスト者にも次のようにおっしゃいます。

ただで受けたのだから、ただで与えなさい。

キアルービックは、2006年にこう記しています。

「福音全体を通して、イエスは、『与えなさい』と私たちを招かれます。貧しい人に、私たちに何かを求める人に、そして、借金を頼む人にも与えなさい、と。飢えている人には食べ物、下着を求める人には上着も、無償で与えなさい、と私たちを招かれます。

イエスご自身、病気の人に健康を、罪を犯した人には赦しを、そして、何よりも私たちに命をお与えになりました。イエスは、誰もが本能的に持っている私欲に対しては「寛大さ」で、私物への執着に対しては「他の人への心遣い」で応えるよう招かれます。「所有する文化」ではなく「与える文化」を生きると私たちを招かれるのです。

今月のみ言葉は、私たちが行う一つひとつのことにある価値を分からせてくれます。というのは、一つひとつの行いを「細やかな心遣いと思いやり」の奉仕に変えることも可能だからです。

愛そうとするとき、私たちに新しい目が与えられます。相手が何を必要としているかを察し、様々な方法やアイデアでその人を真に助けることもできるよう。

では、どんな実りがそこから生まれるでしょうか。愛は愛を呼び起こします。相手の人も私たちの愛に愛で応えるようになり、お互いの間に愛が行き交う関係が生まれるでしょう。

『受けるよりも与える方に喜びがある』(使徒言行録 20・35)と聖書に記されていますが、こうしてたくさんの方が『与える喜び』を知るようになるでしょう」と。

コンゴの小さな女の子の体験は、まさにその証しです。「学校に行く途中、私

は、お腹がペコペコでした。ちょうど親戚の叔父さんが通りかかり、私にパンを買うお金をくれました。少し行くと道端にとても貧しい男の人がいました。私はすぐに買ったお金をその人にあげようと思いましたが、そばにいた友達が『そんなことしないで自分のことだけ考えればいいのよ！』と言いました。でも『私には、明日食べる物があるけど、あの人はどうなるの？』と思い、その人にお金をあげました。私の心は大きな喜びでいっぱいになりました」。

ただで受けたのだから、ただで与えなさい。

イエスは、私たちが無償で頂いた多くのものを思い起こさせます。健康や体力、才能、能力、物質的な富など、そして、お互いの間でそれらを分かち合うように招いています。

互いに「分かち合うこと」は、個人の利益を最優先させる個人主義、そして、市場経済に勝るものがあります。そして、それは「普遍的兄弟愛」、さらに「与える文化」への道を切り開くものです。

これからお話することは実際にあったことです。無私の愛は、豊かな実りを結び、社会の中に浸透していくことを裏付ける出来事です。

1983年当時、フィリピンは政治的にも、社会的にも、非常に困難な状況にありました。そのため、多くの人々が解決策を見出そうとしていました。ある若者のグループも自分たちも何かしなければと強く感じ、最初に彼らがしたことは、タンスから自分に必要でない服を全部取り出しリサイクルショップで売ったことでした。わずかな額でしたが、こうして「ブカス・パラド」という社会センターを立ち上げる資金づくりが始まりました。「ブカス・パラド」は、タガログ語で“開かれた手”という意味があります。「ただで受けたのだから、ただで与えなさい」という福音の言葉からヒントを得て付けられた名前です。“開かれた手”、まさにこれが「ブカス・パラド」のモットーとなりました。

やがて、数人の医師も無償で診てくれるようになりました。経済力のある人はお金を寄付してくれ、ある人は場所を提供してくれ、こうして貧しい人を助けるための広範囲にわたる社会事業が生まれってきました。これらの活動は今もフィリピン各地で行われています。ここ数年、かつて援助を受けていた人々がその活動を助けているのを見ると、「ブカスパラド」の目標は達成された感があります。「与えなさい」という福音の招きに応じて何年も前に始まった「ブカスパラド」ですが、今や、そこで助けられた人々の手で続けられているからです。見返りを求めさえしなければ、善は社会に浸透していくという一つの証しと言えるでしょう。

レディツィア・マグリ

連絡先: フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

NHKの「こころの時代」で昨年枢機卿に就任された大阪教区の前田万葉大司教さまのインタビュー番組を観ました。

大変に素晴らしい一時間を夢中になって心の底から感動し、終わった後もしばらくは身動きするのさえもつたいないようで、余韻の中に全身ですっぽりと浸っていました。　　どう言い表したらよいのでしょうか、まるで一冊の本を読み終えたときの、一つの世界を体験したかのあの心ゆく充足感を深く深く味わったのです。

実のところ私はカトリック教会の組織というもの、また職務というものをそれほど良く知ってはいないので、枢機卿というものも大阪教区のこと大司教というものも、また、前田万葉神父様のことも、とにかく何ひとつ心にとめていたものはなく、その上私自身のこのところの生活環境もあり教会へ行くこともままならないこともあって、枢機卿就任のニュースさえもこの番組を観るまで知ることないままでいたのです。

テレビのインタビューにはさまれる映像画面は、バチカンでのフランシスコ教皇様からの任命の感動的な場面もあり、前田枢機卿さまのご出身である五島列島仲知の美しい風景などもあり、興味を深くそそられるものでした。

五島列島の潜伏キリシタンを先祖にもち、島全体のほぼ全員がカトリック教徒であるという環境に生まれ育ったという枢機卿さまのお話は、何もかもどれもこれもが物語のように耳に届き文字通り固唾をのんで聴き入りました。　　また何よりも枢機卿さまの語り口が表現のしようもない或る雰囲気満ちていて、お人柄と言っていいのか、こちらに届いてくる言い尽くせない何かを書き表したいものと苦心しているのですが、とにかくお傍に座り片時も目を離さず息を凝らして、でも快く安心してずっと聴いていたいという、そういうものに包まれたひと時だったのです。　　お国訛りもうかがわれるゆったりと落ち着いた純朴なお話しぶりはとても温かくそして知的です。　　お話も平易で言ってみれば日常のお話ばかりでした。　　少年時代は不良少年を気取ったり、すねて見せたりしつつも、島全体が教会中心の、家庭でも当たり前にお祈りし十字を切る生活は好きだったとのこと。　　早朝のミサをさぼって友達と舟を出して釣りに出かけ大漁を果たし意気揚々と帰ってくると、浜辺に待ち構えていた司祭に聖堂に連れて行かれ正座させられ、めでたし一万回を言い渡されて、ご両親や島の皆さんのとりなしで許してもらったこともあったとか。　　（井上ひさしの本に告解の償いにめでたし千回を命じた聴罪司祭がいましたっけ・・・）

司祭になりたかった父上の独断で小神学校への手続きが行われ、ご本人は寮でホームシックで泣き暮らし、一度は逃げ帰ったりもあったとか。

母上は長崎で被爆され身体の不調に原爆病院へ通いながらも、身に受けたすべてをひとことも不服とせず、黙ってしっかりと生きられて亡くなられたことを愛情深く語られました。 枢機卿さまはお話になるときのまなざしがとても印象的で、ここにはないもの見えないものを遠くに見ているかの不思議な深さに心が惹かれます。

この番組の題名が「いのちの海に網を降ろす」とされていますが、前田枢機卿さまの座右の銘が「お言葉ですから網を降ろしてみましよう」なのです。

これまでの生涯はこの言葉に導かれて来たと言われます。 この聖句、そしてこの生き方、これほどふさわしい出来事があるのでしょうか。 私は思わずゲネサレ湖畔、ガリラヤの海辺の頁を開き、ペテロ、シモン、アンデレ・・・漁師たちとイエズスキリストとの交わりを、ひとつひとつのシーンを心に描きながら時を忘れて夢中で読みました。 目にも耳にもすべてがとても身近に親しく感じられて、手をのばせばさわれるすぐ隣りのようでした。

「まさか・・・」と思っても「お言葉ですから・・・」 絶対の信頼と慈しみの恵みと・・・深く心を打たれたのでした。

枢機卿さまがペテロたち漁師のお仲間と思えました。

二千年を超えてずっと続いていることの、ひとつの形を目の当たりにしたという思いでしょうか。 組織、職務ということの或る姿をよく知ったという気がしています。 「家族」ということを考え思いました。 天におられるわたしたちの父よ の意味が今ここに染み入り固く刻まれる気がしています。

私がお会いした神父さま、修道士さま、神学生、修道女、そしてたくさんのお仲間たち一人ひとりを今ここにおもいます。 それからお会いしたことはないけれど導きや親交を深くいただいたたくさんの方々の古今東西の方々。 それからキリスト者ではないたくさんの方々も。

今、何か壮大なドラマのただなかに私も在るという思いでいます。

もう一度ゲネサレ湖畔、ガリラヤの海辺の頁を開き、ゆっくりと思いを深めて、感謝と喜びを時空を超えた家族のすべての人々に伝えたいです。

(上野毛教会信徒)

糸巻き棒からペンへ(44)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

聖女の姪、マリア・デ・オカンポは、(新しい修道院の創立が) なされるならば、一千ドゥカドを提供すると断言し、そのグループに加わっていたドニャ・ギヨマルも、援助を約束しました。テレジアは、二三日後、聖体拝領した時、キリストが「必ず修道院を創るとの大きな約束を私にしながら、そう努めるよう命ずる」(『自叙伝』32・11) までは、このことをそれほど確信していませんでした。

二年間の絶え間ない戦いが始まりました。聖女の知人たち(特に聴罪司祭)は、それは狂気の沙汰だと言いました。彼女は権威ある意見を望み、アルカンタラの聖ペトロやボルハの聖フランシスコや聖ルイス・ベルトランへ手紙を書きます。彼らは彼女を無条件に応援すると返事してきました。カルメル会の管区長も創立を承認したので、創立を実現するために、教皇の勅書を願う決心をしました。創立の話がエンカルナシオン修道院や町に知られると、大多数の人々が反対し始めました。そこで管区長も最初の承認を取り消します(『自叙伝』32・15)。

人々は彼女を照明派だとか悪魔につかれたのだとか非難しました。そこで彼女は、その時、アビラでもっとも高名の神学者であるドミニコ会のペトロ・イバニェス神父に意見を乞いました。彼のために彼女は、自分の霊の状態に関する40段落もある長い覚書を書きました。現在、私たちが手にしている第一の「意識についての説明」(邦訳では『靈的報告』)です。

「現在私がしている祈りの中での動きは、次のようなものです。すなわち、まれに起こることなのですが、祈りの中にいる時、私は知性によって思いめぐらすことができます。というのも霊魂が潜心し始めると、諸能力や感覚をまったく使えないような静穏の状態に入るからです。…そして神を侮辱すまいという非常に大きな決心が私にやってきます。そんなことをするくらいなら千度でも死ぬでしょうと。…それにもかかわらず、私はそれが確かに神であると思うのですが、私の霊魂の世話をしてくださる方が良いと思われなければ、自分としては全く何もするつもりはありません。…これらのことが、主が私のうちで働かれると感じていることです。すべてのことを、神父様のご判断にゆだねます」。

町の反対や受けた圧力にもかかわらず、ドミニコ会士の意見は肯定的なものであり、33の点にまとめた賞讃に満ちた報告書が送られてきました。

(P. 九里訳)

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2019年5月8日

跣足カルメル在世会 マレーシアとフィリピンで国内大会開催



マレーシアとフィリピンの跣足カルメル在世会は、今年4月25日～28日に三年に一度の全国大会を開催した。マレーシアでは会員たちがクアラルンプールに集まり「共同体で愛に生きるより良い実践の活動」を主題に考察し話し合った。クアラルンプールにある幾つかの共同体から約80名の会員が台湾—シンガポール地域の総長代理ジョン・チュア神父、OCDと共に大会に出席した。そしてこの大会中にマレーシア管区顧問会の新メンバーが選出された。



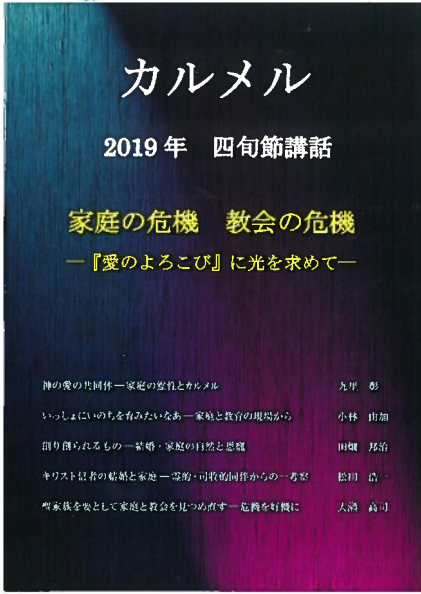
フィリピンでは、在世会会員がタガイタイに集まった。大会には跣足カルメル修道会管区長、在世会の管区長代理ベネディクト・ピアンゴ神父、OCDと共にフィリピンの46共同体の会員たちが、ヴェトナムからレイナルド・ソテロ修道士、OCDと幾人かの会員を迎えて出席した。ここでは今まで三年間の共同体の主題であった「現代においてキリストの愛に生きるカルメル在世会」に関する考察が展開された。

どうか主が、マレーシア、フィリピン、ヴェトナムの地で時には困難な状況下、敵対する環境の中で生きる私たち聖テレジアの家族カルメル在世会をこれからも続けて祝福して下さいますように。

(小宮山延子 訳)



カルメル誌 新刊案内



2019年 特集号 「家庭の危機 教会の危機」 —「愛のよろこび」に光を求めて—

神の愛の共同体—家庭の靈性とカルメル 九里 彰
 いっしょにいのちを育みたいなあ 小林由加
 —家庭と教育の現場から
 創り創られるもの—結婚・家庭の自然と恩寵 田畑邦治
 キリスト信者の結婚と家庭 松田浩一
 —靈的・司牧的同伴からの—考察
 聖家族を要として家庭と教会を見つめ直す 大瀬高司
 —危機を好機に

2019年 夏号 No.373

《祈りを学びたい人のために》**
 信仰生活(再)入門 テレーズと共に歩む 幼子の道(6)
 —祈りを始めるために(2)謙遜-イエス・キリストの香り 片山はるひ
 パウロの祈りに学ぶ(2)
 平和の神を賛美し告げる祈り—ローマの教会への手紙 田畑邦治
 エディット・シュタインが教える祈り(1) 須沢かおり
 現代社会において 祈りの人となるには(2) 九里 彰

 風に吹かれて(20)—新しい友との往復書簡 原 造
 キリストに伴われて季節を巡る(6) 伊従信子
 教会の「もてなし」の使命
 —国籍を超えた上の国をめざして ポーリン・フェルナンデス
 カルメル会の会則に見る アシェーシスと修道生活(6) 九里 彰
 靈性研究会議義録(5)—三つのキリスト論の補足 奥村一朗

◆案内 1冊 520円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会
信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、700円【520円 (+送料180円)】程度の献金を下記
へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬
+特集号 計 3,500円)を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは事務担当 竹田まで TEL(03)5706-8356



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ



福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】**287**

**第2版
好評発売中!**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

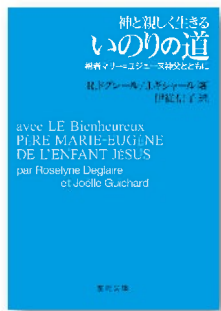
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】**246**

定価**540**円(税込) 209頁



わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】**268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

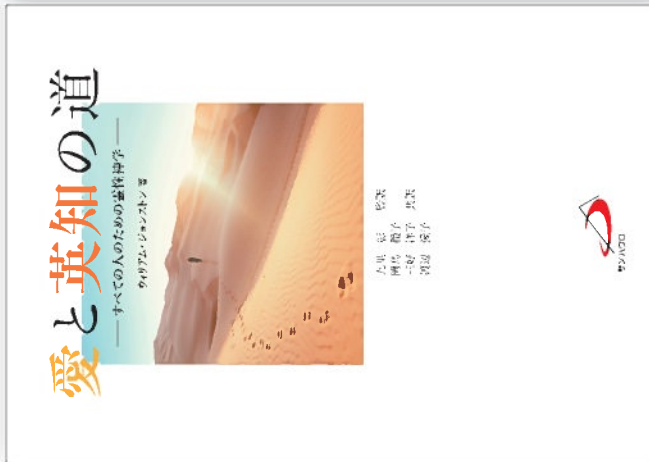
聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340

愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 福音書(1)
- 第2章 福音書(2)
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギヤ
- 第10章 英知と(空)

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 (愛のうちにある)
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

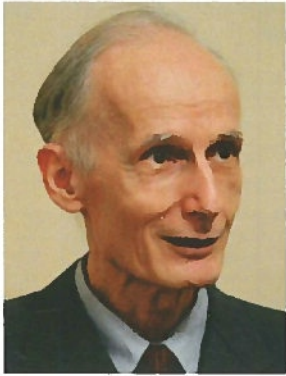
ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じる。また、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。





クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり方の薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

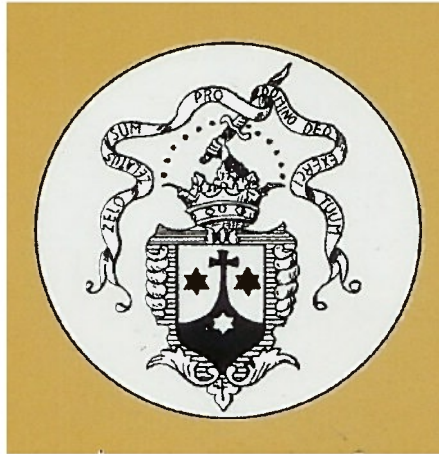
●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館 〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) **

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【クリスマス】 12月24日(火)～25日(水)朝食≪講話なし、夕食なし≫

聖書深読黙想会 (土曜日18時～日曜日16時) 大瀬高司 神父

7月20日(土)～21日(日)

11月30日(土)～12月1日(日)

一泊黙想会 (土曜日16時～日曜日16時) 志村武神父

2020年

7月6日～7日

1月18日～19日

11月9日～10日

3月14日～15日

日帰り黙想会——(13時30分～16時)——福田正範 神父

5月以降は全て中止となりました

奉獻生活者のための黙想会 (初日17時～最終日朝食)

※指導司祭は、当初ご案内していた福田正範神父から今泉健・志村武両神父に変更となりました

8月1日(木)～10日(土)

10月10日(木)～19日(土)

8月16日(金)～25日(日)

12月27日(金)～1月5日(日)

青年黙想会(男女) 35歳位まで(初日16時～翌日16時) カルメル会士

2020年

2月15日(土)～16日(日)

召命黙想会（男女）40歳まで（初日16時～最終日16時） カルメル会士
11月22日（金）～11月24日（日）

特別黙想会（初日20時～翌日16時）Sr. 伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィ）
11月15日（金）～11月17日（日）



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ（<http://www.carmel-monastery.jp>）なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

聖テレジア修道院（黙想）

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ：http://www.carmel-monastery.jp

一泊黙想会

5月より新しく一泊黙想会を開始致します。皆様の参加をお待ちしています。

場所: カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

指導: 志村 武神父

会費: ¥6500

日時: 2019年 5月25日(土)~26日(日) 16時開始、翌日16時まで

7月 6日(土)~ 7日(日) //

11月 9日(土)~10日(日) //

2020年 1月 18日(土)~19日(日) //

3月14日(土)~15日(日) //

*お問合せ・お申込み

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

TEL.03-5706-7355

FAX.03-3704-1789

Eメール:mokusou@carmel-monastery.jp



カルメル修道会 土曜静修 in 名古屋

—カルメル会士とともに過ごす聖母の土曜日—

日 時 : 2019年 7月6日 (土) 13時から 17時

場 所 : カルメル修道会 日比野 (本部) 修道院 (カトリック日比野教会)

プログラム : 13時 ~ 講話・黙想など
16時 ~ ミサ (ミサ中に教会の祈り)、サルヴェ・レジナ (ミサ後)
17時 解散

- ・受付開始は12時半の予定です。
- ・途中、ゆるしの秘跡の時間を設ける予定です。
- ・プログラムに必要な「祈りのリーフレット類」は、こちらで準備いたします。

そ の 他 : 参加のための事前連絡は不要です。当日、直接会場にお越し下さい。
(尚、当日は、1,000円程度のご寄付を宜しくお願いいたします。)

問い合わせ : 郵便、FAX、E-mail の何れかで「カルメル修道会 一日静修係」まで。

郵便 456-0062 名古屋市 熱田区 大宝 4-5-17
FAX 052-681-6445
E-mail hibino@carmel.or.jp

今後のスケジュール

★8月の土曜静修は、お休みとさせていただきます。ご注意ください。
次回9月7日 (土)、10月5日 (土)、11月2日 (土)、12月7日 (土)。
何れも原則13時から17時まで。ホームページでもご案内しています。

<http://www.carmel-monastery.jp>

< 主催 > 男子跣足カルメル修道会 日比野 (本部) 修道院 (大瀬神父・古川神父)



宇治カルメル会 黙想会案内

【一般のための黙想】・1泊2日（午後5時～午後4時）

~~7月13日(土)～14日(日) 「私の隣人とはだれですか？」 九里彰神父 中止~~
11月23日(土)～24日(日) 現代を生きるイエスのしるし 中川博道神父

【聖書深読黙想会】（午前10時～午後4時）

~~9月7日(土) 九里彰神父 中止~~ ~~11月16日(土) 九里彰神父 中止~~

【水曜の黙想】（午前10時～午後4時）

10月30日(水) かそけきもの Br.原造
11月27日(水) あなたは世の塩である Sr.ロサ
12月18日(水) 主が生まれる私たちのうちに 中川博道神父

【土曜の黙想】（午後1時～午後6時）

~~7月27日(土) 「私は復活であり、命である」 九里彰神父 中止~~
9月21日(土) み国が来ますように Sr.ロサ
~~10月26日(土) 「思い悩むな」 九里彰神父 中止~~

【一般のためのカルメル霊性】（午後5時～午後4時）

9月28日(土)～29日(日) 聖テレーズの黙想会 中川博道神父
~~10月12日(土)～13日(日) イエスの聖テレジア 九里彰神父 中止~~
12月14日(土)～15日(日) 十字架の聖ヨハネ 中川博道神父

【奉献生活者の黙想】（午後5時～午前9時）

8月5日(月)～14日(水) 中川博道神父
~~8月19日(月)～28日(水) 九里彰神父 中止~~
11月6日(水)～15日(金) 中川博道神父
12月27日(金)～1月5日(日) 中川博道神父

九里彰神父の黙想会は5月より金沢へ移動にあたり、全て中止とさせていただきます
また今後、変更があり次第、掲載させていただきます

【待降節の黙想】 (午後5時～午後4時)

12月7日(土)～8日(日) ~~「メシアのしるし」~~ 九里彰神父 **中止**

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後4時以降可 チェックアウト午前11:30{講話なし 各食事つき}

【クリスマス】

12月24日(火)～12月25日(水)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願い致します。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

金沢黙想案内

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
慈しみ深き会
詩編の会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

「祈り」：神秘体験
キリストによって神との出会い

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

2月14日：コデノッティ・クラウディオ神父(ザベリオ会管区長)
個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

- 1月10日 「わたしはある」（ヨハネ8:24.28）
2月14日 「わたしはこの世の光である」（ヨハネ8:12.12:46）
3月14日 「わたしは門である」（ヨハネ10:7-9）
4月11日 「わたしは良い羊飼いです」（ヨハネ10:14）
5月 9日 「わたしは復活であり、命である」（ヨハネ11:25）
6月13日 「わたしが命のパンである」（ヨハネ6:35.51）
7月11日 「わたしは道であり、真理であり、命である」（ヨハネ14:6）
8月 休み
9月12日 「わたしはまことのぶどうの木」である。（ヨハネ15:1-12）
10月10日 「わたしは…いつもあなたがたと共にいる」（マタイ28:20）
11月14日 「わたしはアルファであり、オメガである」（黙示録1:8）
12月12日 「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、
わたしもその中にいるのである」（マタイ18:20）



申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

講話と祈りのつどい

【2019年7月13日（土）】

聖霊に助けられて



聖霊にあまり馴染みがない？
しかし聖霊はわたしたちの生活のなかで
つねに働いておられます。

(参考テキスト『いのりの道をゆく』伊従 信子編・著)

講話・祈り・分かち合い 2時～午後5時30分

担当 中山真里

場 所：ノートルダム・ド・ヴィ（東京・上石神井）



参加費：200円

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jesuits.or.jp/>

込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
フォローアップ 先発組	8/18(日)9:00- 19(月)17:00	Fr植栗	札幌カトリックセン ター	本間 Tel 080-3260-1864 本間不在時、 山崎 Tel090-4720-2157
歩行冥想	8/20(火) 9:00-17:00	Fr植栗	同上	同上
フォローアップ 後発組	8/21(水)9:00 22(木)17:00	Fr植栗	同上	同上
妙高サダナⅡ	9/4(水)17:30- 8(日)14:00	Fr植栗	妙高教会 赤倉山荘 (新潟県妙高市)	佐藤 範子 Tel080-3145-3646
仙台フォロー アップ	9/13(金)9:00- 14(土)16:00 ※サダナⅠを終 えている方。	Frマルコ・ アントニオ Fr植栗	ラ・サール会 仙台修道院 (仙台市宮城野区)	松本由美子 Tel 070-6950-4199 ※前泊、継続宿泊、通い も可能です。
仙台サダナⅠ	9/15(日)9:00- 16(日)16:00	Frマルコ・ アントニオ Fr植栗	同上	同上
サダナⅡ	9/19(木)9:00- 23(月)16:00	Fr植栗	上石神井無原罪 聖母修道院	来間(くるま) 裕美子※ Tel 090-5325-2518 045-577-0740 sadhana12378@yahoo. co.jp
入門A	9/29(日)9:00- 17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F(四ツ谷)	同上

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518(来間)までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

◆サダナⅠ(入門A、B、C)…体の営みと想像とを生かして祈りを深め「神との出会い」と「心の解放」をめざします。 ◆サダナⅡ…Ⅰをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合されます。 ◆フォローアップ…サダナⅠを終えた方。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院 (2019年)

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
Eメール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 5月 5日(日)～ 5月 13日(月)
- ② 8月 14日(水)～ 8月 22日(木)
- ③ 10月 6日(日)～ 10月 14日(月)
- ⑤ 12月 27日(金)～2020年1月 4日(土)

B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ④ 6月 21日(金)～6月 23日(日)
- ⑤ 7月 12日(金)～7月 14日(日)
- ⑥ 9月 20日(金)～9月 22日(日)
- ⑦ 11月 15日(金)～11月 17日(日)

C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)

2019年 5月 30日(木) 夕食～6月 7日(金) 昼食 小暮 康久 師 (SJ)

◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(カタカナ) 2) 〒住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Fax で「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順 11名です。

◎ 女子青年 黙想会

- ① 6月 15日(土) 15時～6月 16日(日) 15時 30分
- ② 10月 26日(土) 15時～10月 27日(日) 15時 30分

申込み：唐崎修道院 Sr.桂川 美代 (Tel:077-579-2884 Fax:077-579-3804)

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なされたい方は
ご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日、9月1日～9月7日を除きます。)

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

12月のみマリア聖堂（ミサあり）

14：00～16：00



くのり

指導：九里 彰神父（カルメル修道会）

【2019年予定】 聖書のみことばを通して、念禱してゆきましょう。

~~1月24日—まことの家族とは— 終了~~

~~「わたしの母、わたしの兄弟とは…」—(ルカ8・21)—~~

~~3月21日—祈りと祈りの場— 終了~~

~~「わたしの家は、祈りの家でなければならぬ。」—(ルカ19・46)—~~

~~5月16日—人間の傲慢— 終了~~

~~「だれが一番偉いかという議論が起きた。」—(ルカ9・46)—~~

7月25日 神の愛と隣人愛

「わたしの隣人とはだれですか。」（ルカ10・29）

9月26日 信仰と救い

「あなたの信仰があなたを救った。」

（ルカ7・50；8・48；18・42）

11月28日 神の愛と回心

「人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」

（ルカ19・10）

12月19日 謙遜と従順（講話の後、ミサ）

「お言葉どおり、この身に成りますように」（ルカ1・38）

*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

ミサと晩の祈りをうたう集いへのおさそい

《 守護の天使の記念日 》

日時：2019年 10月2日 水曜日

13時半 晩の祈りの練習

14時 歌唱ミサ

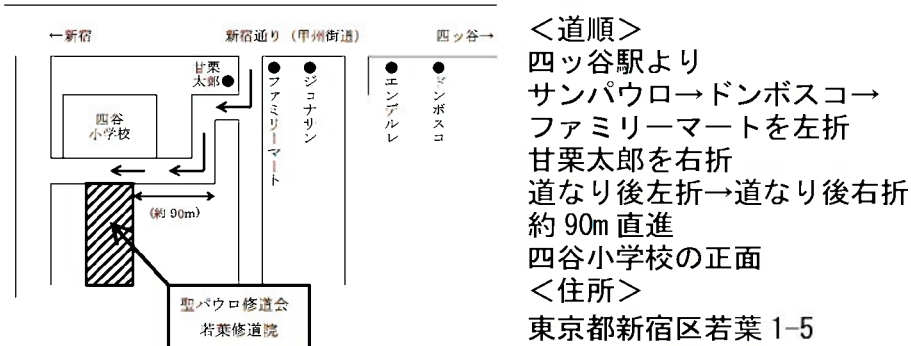
ひきつづき 晩の祈り（歌）（終了予定 16時頃）

司式：中川博道神父（カルメル修道会）

場所：聖パウロ修道会 若葉修道院

*上履きをご持参ください

JR 中央線/営団地下鉄 丸ノ内線・南北線 「四ツ谷」駅下車



主催：「詩編の会」

「神はその羽であなたを覆い、翼のもとにあなたは逃れる。」

(詩編：91・4ab)

問合せ・連絡先：TEL/FAX 045-402-5131 (藤井)

e-mail: shihennokai@gmail.com

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。

また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。

その場合は、「献金」とご記入お願い致します。

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御藏山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

あとがき

霊性センターニュースをご愛読くださりありがとうございます。今まで、受け取って利用していただけの冊子が、どのように毎月発行されていくのかを、今、あらためて知る場に置かれ、感心しています。

現在、本冊子は毎月 600 部印刷発送しております。皆さんのお手元に届くまでの工程の始まりは、寄稿してくださる方々が、まず、編集の事務全般（編集事務・印刷・綴じの作業も）を統括して下さっている大保さんにメールでお送りいただきます。翻訳のご依頼をした原稿も含め、すべての原稿の締め切り日を過ぎた段階で、編集し、印刷・綴じの作業に移ります。その後、カルメル在世会のボランティアのメンバーを中心に、6名ほどの方々が半日ほどかけて発送のための作業に当たって下さっています。

「霊性＝イエスとの生きた出会い」が教会の最優先とうたわれる時代、これからも、多くの皆さんとの共同作業をとおして分かち合いながら「キリストのみ顔」を探しつづけていくことができますことを願っています。

Fr.中川博道 o.c.d.

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google: 「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています



***** 8月休刊のお知らせ *****

「霊性センターニュース」は、8月（号）休刊となります。
9月号は、8月下旬発送予定です。ご了承下さい。



~~~~製本／発送のご協力お願い~~~~

「霊性センターニュース」の製本/発送を、2017年7月号より宇治修道院で行う事になりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

次回の製本/発送日 **8月23日(金) 午前10時頃から**  
**宇治修道院信徒会館**

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越しく下さい。

霊性センター事務局 ☎0774-32-7456